

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0571213958		
法人名	社会福祉法人 こまくさ苑		
事業所名	認知症対応型共同生活介護支援事業所 田沢の家		
所在地	秋田県仙北市田沢湖生保内字上清水698番地		
自己評価作成日	令和5年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様個々ができることを行っただき、生き活きと暮らせるように支援します。利用者様と職員と一緒に生活を送り、明るく、楽しい時間が過ごせるようにしていきます。利用者様の想いを聴き、寄り添いながら、安心できるホームで過ごしていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

老健他、多くのサービス事業を展開し、連携体制にあることから、家族から安心感の持てるホームとして受け止められています。職員と一緒に折り紙で作品をつくったり、花を植えたりと自分の生活リズムで活動できるよう支援しており、敷地内を散歩して自然に恵まれた環境の中でゆったりと過ごしています。コロナの感染防止対策のため地域交流や外出が制限される状況が続く中、職員はレクリエーションに工夫を凝らし、ホームに居ても楽しんでいただけるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	わかりやすい理念で、皆が共有しやすいように掲示している。方向性の検討が必要な時に理念の確認をしたり、申し送りやミーティング等の話し合いの場で共有ができています。	その人毎の暮らし方を大切に、理念に基づいた支援が実践できるようミーティング等で意識づけを図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や公共施設の利用、学校行事等への参加がなされていたが、まだ、コロナウイルス感染予防策はとられており、制限があることもあり、日常的な交流には至らない。	コロナ禍以降、地域交流は控えています。訪問理由は地域の方をお願いしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	職員が認知症サポーターとして、認知症の方々の理解を求め、地域や学校等での研修や講座開催に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での議題を様々に提供、報告を行い、委員からの意見、要望を取り入れている。	感染状況によって書面開催の回もありますが、対面会議も開催されています。メンバーからは多くの意見、質疑が出され、活発な意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター、介護保険事務所、地域密着型事務所連絡協議会等の研修会等へ参加し、情報交換を行い、取り組みを強化している。	生活保護受給者がいることから福祉事務所と連携して利用者の支援が行われている他、リモート開催が多いものの、研修を通じて関係部署と連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待とは？という言葉の申し送り時等に言葉にするようにしている。自分で考えながらケアにあたるよう伝えあっている。「不適切ケア」という形で、自分たちの支援について話し合っている。	申し送りで話し合うことが多く、職員それぞれが内容を共有して身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の利用者様や利用申込者様の中に対象例はないが、必要に生じた際は制度活用ができるよう理解はできている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時、解約前後を含め、十分な説明は行っている。いつでも、相談くださるよう伝えている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	書面や口頭で意見等を伺える機会を設けている。また、意見、要望、苦情等を伝える場所の説明を入居時に行っている。	モニタリング報告をし、定期的に意見、要望の引き出しに努めている他、運営推進会議で意見を出してくれる方もおります。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員ミーティングや職員個々からの意見の聞き取りを行い、運営側に伝えている。随時、対応はなされていると思う。	法人の全体会議は開催されていないようですが、意見、要望を伝える環境はあり、反映できるよう取り組みがされています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモート研修等が増え、研修参加はしやすくなっているが、反面同業者との直接的な意見交換は難しくなっていると思う。 研修等での内容をミーティングや申し送り時に報告、話し合いを行いサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査の実施にて、本人、家族様からの話を聴取、事前に職員間でも共有し、不安なく利用できるようにしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込み段階で、担当ケアマネジャーや家族様から心配なこと、要望等の聴取を行っている。随時、相談対応を行いながら関係性を築いている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは自分で行えるよう見守りや、その環境づくりをしている。 常に互いが会話でき、意思確認や行動を共にできるようにしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活状況や本人の状態の説明、報告を行っている。随時支援内容を伝えもしながら、家族様からも受診の協力を得たりしている。 感染症予防による制限がなくなり、外出、外泊支援を再開していきたい。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	携帯電話の持ち込みにより、子や孫との会話をしたり、電話をかける、はがきを出す、返事を届ける、代筆するといった支援を行っている。	コロナ禍以降、以前のような関わり方が難しい状況にありますが、手紙や電話でその関係性の維持に取り組んでいます。理容師とは馴染みの間柄であり、家族の受診対応も状況をみながらお願いしています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が聴こえにくい方や言葉の理解が難しい方など、互いの中に入り、会話を取り持っている。迷いや不安のある利用者様に寄り添える支援をしている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族様の意向に沿った支援ができるよう相談くださるよう伝え、要望等に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や会話の中から思いや、望み、心身の状態をくみ取り、一緒に考え、検討し、皆で共有し、その人らしい生活ができるようにしている。	日々の関わりの中で意向の把握に努めています。その人を理解することに努め、会話や行動から得られる情報を大切にしています。職員は各自メモ帳を活用し、申し送りで伝えています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネジャーより情報をいただき、可能な限りサービスを提供。入居後も、本人が考える、動くという行動をまず見守るところから始めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	担当者会議のモニタリングでの意見、要望を組みとることや、家族様のモニタリング内容の把握に努め、計画に反映するようにしている。	モニタリングを行い、家族に報告してカンファレンスで再確認し、介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りにて情報を共有している。モニタリングを参考に担当者会議の場で検討、計画、実践へとつなげている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症予防策をとりながら、気分転換での外出支援を通し、観光や外食等の援助を行っている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った病院に受診するようにしている。状態変化時等には、相談、助言いただけるよう受診前に連絡をとっている。歯科については、往診いただいている。	入居前からの医療機関で受診しています。歯科、薬局とも良好な関係にあり、適切に支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護職と、常に連絡、相談可能な体制ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院内の連携室を通し、状態等の確認ができています。 家族様からの協力も得て、状態や退院後の生活の場について等の相談にも対応している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できることと、できないことの援助を明確に説明するようにしている。状態変化時の早期に話し合いをするようにしている。	終末期には対応しておりませんが、可能な限りホームで生活できるよう支援しています。 ホームでの対応が困難になった場合には、法人内で連携して支援にあたることを伝えており、家族の安心感に繋がっています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットや事故発生事例により、再発防止策や対応の話し合いを行う延長上で、急変や救急時の対応の確認を行ったりしている。マニュアルの確認も行っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に想定を様々な形で行うようにしている。 隣接施設からの協力を得る体制となっている。	法人内の協力体制があり、運営推進会議でも災害対策について話し合っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのやりたいことを聞きだし、その人にあった言葉かけに気をつけるようにしているが、気分が乗らなかつたり、やりたくない声があった際には、思いを尊重するようにしている。	不適切な言葉遣いにならないよう心がけ、その人に合った対応に努めています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを一緒に選んだり、散髪や顔そりの要求に応じて床屋を予約したりしている。化粧品等の買い替えの相談等にも応じ、援助を行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや下ごしらえをしていただくようにしている。盛り付けや後片付け、食器拭き等も利用者様と一緒にを行うようにしている。	食べたいものを外注したり、ホットプレートを使用して目の前で調理したりして楽しい食事に繋がる工夫をしています。外にテーブルを出してお茶をいただいたり、散歩しながら山菜を摘んできたりすることもあります。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に、食べる量や軟らかい物、刻みの物の等、食事の形態で対応可能。体調不良時に合わせてのお粥や食べたい物への対応を行っている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、口腔ケアを行っている。声かけ、誘導の他、状態に応じては、口腔ケア援助を行ったり、口腔ケアのための歯科往診を受けたりしている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄量や失禁の状態に合わせておむつ等の種類の検討を行い、不快のないように対応をさせていただいたり、個々の要望に応じて、不安のないよう、おむつは使用している方への援助として、排泄の声かけや定期的なトイレ誘導を行い、自立へむけて支援している。	布パンツのみで過ごしている方は状態が維持できるように、また、排泄用品を使用している方は失禁の減少に繋がるようにチェック表で個々に管理し、トイレでの排泄を基本に支援しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や果物、食物繊維の多い食材や、乳製品等の飲料をしたり、食事前の体操を取り入れたりしている。 下剤内服時は、水を多めに飲んでもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴実施日は決まっており、その日の入りたい時間帯を希望に応じている。 一人ひとり入っていただき、個々の入り方を見守り対応を行っている。	利用者の状態によっては職員2人で対応することもあります。全員湯舟に浸かって入浴できるよう支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でテレビをみたり、ゆっくり過ごしてから寝る方、ホールで皆と過ごしてから休む方、個々に、休みたい時に休んでいただけるよう援助をしている。 眠剤を内服している方にも、飲みたい時間帯があればその時間に合わせ内服する方もいる。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の記録簿に処方箋を添付しており、いつでも確認できるようにしている。 薬剤師からの指導を確認したりも可能となっている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとつ位づつ手伝いをいただけることを探して役割として行っていただいている。 おやつの時間を使い、食べたい物の準備をしたり、好みの嗜好品の準備をさせていただいている。 天気の良い日は外でのお茶会を開催したりしている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症予防のために外出支援は思うようにできていない。 大衆な場所を避け、ドライブや施設周辺でのお茶会や昼食会を楽しんでいる。 受診先の売店や食堂の利用を家族と行ってきたりする方もいる。	天気の良い日にはホーム周辺を散歩して外の空気を吸っています。山菜を摘んだり、職員の畑作業を見物したり等々、コロナ禍であっても戸外で過ごすことができる支援が行われています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	電話をかける程度の金額の所持や使うことをしている利用者様がいます。ホームでの預り金の中から対応を行っており、十分に理解して使っていると思われる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花や植物を飾り、食堂へも花を飾ったり、利用者様の作った作品を飾るなどしている。利用者様が花の世話をを行うなど楽しんでもいただいている。 ホールと食堂の空間が一緒に、食事の匂いや人の声など生活感がある。	ユニットの造りは異なりますが、利用者の動線に合わせてテーブル等を配置し、窓から見える風景が四季の変化を感じさせてくれます。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルを囲んでの談笑がみられる。ソファや廊下へ椅子を置いており、好きな時に居れるようにしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の使い慣れた物の持ち込みをお願いしている。また、自分の作品や家族の写真等貼ったり、自分の部屋として利用できるようにしている。	位牌を置いている方、猫のぬいぐるみのお世話をしている方等、一人ひとりが自分の居場所を造って生活しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所や居室間違いがないように、ネームの張り出しや飾りつけを利用したりしている。個々に合わせ、安全に配慮し、食席や居室内の環境整備を検討している。		